公認会計士稲門会

「公認会計士稲門会の新たな挑戦 ―「勢力拡大」に向けて」

脇　一郎
（公認会計士稲門会　会長）
（1993年 商学部卒業）

はじめに

公認会計士稲門会は、長年にわたり会員同士の交流を促進し、公認会計士業界の発展に貢献してきました。公認会計士の職域は、財務管理や監査、税務対策に留まらず、企業経営の意思決定やリスク管理、戦略策定など、広範な分野へと拡大しています。

近年、DX（デジタルトランスフォーメーション）の進展により、会計業務はかつてない変革を遂げています。AI監査ツールの発展やクラウド会計の普及により、従来の業務プロセスが大きく変わりつつあります。さらに、国際会計基準（IFRS）の適用拡大や企業のESG（環境・社会・ガバナンス）対応など、公認会計士に求められる専門知識は多岐にわたるようになっています。

こうした環境の変化を踏まえ、公認会計士稲門会もまた進化を遂げる必要があります。昨年、私は会長に就任し、これまでの伝統を受け継ぎながらさらなる発展を目指すべく、「**勢力拡大**」をキーワードに、以下の重点施策を推進することを決意しました。

1. **会員増強と財政基盤の強化**
   – 若手公認会計士の参加促進と組織の安定化
2. **サステナブルな事務局運営のためのデジタル化**
   – デジタル化による事務効率化と負担軽減
3. **ネットワーキング強化による当会の利用価値向上**
   – 情報共有の場の拡充と価値向上

この新たな挑戦により、公認会計士稲門会はより影響力のある組織へと進化し、会員の皆様にとって真に有益なプラットフォームへと成長することを目指します。

会長就任の背景と使命

脇 一郎 会長のプロフィール

- **現在の役職**：株式会社JBAホールディングス代表取締役グループCEO
- **公認会計士試験合格**：1992年
- **監査法人での経験**：
  - 1993年に中央監査法人国際部（C&L）に入所し、主に監査業務に従事
  - 第3次試験合格後に企業に転職
- **企業でのキャリア**：
  - 主に外資系企業日本法人でファイナンシャルコントローラー、FP&A（財務計画・分析業務）担当
  - 外資系IT企業日本法人の代表取締役社長を歴任
- **JBAグループ設立**：
  - 2006年にJBAグループを6名の創業メンバーで設立し、現在は同グループ代表取締役グループCEO

- 業界団体での活動：
  - 日本公認会計士協会 常務理事
  - 国際会計士連盟（IFAC）の企業内職業会計士アドバイザリーグループ（PAIB）メンバー

公認会計士業界の変化と稲門会の使命

公認会計士の業務は、財務監査や税務対応のみならず、企業経営の意思決定に関与する役割へと広がっています。特に近年、企業はサステナビリティ（持続可能性）を重視する傾向が強まり、非財務情報の評価や統合報告の作成支援が求められるようになっています。そのため、公認会計士には戦略的な視点を持ち、企業の成長を支える役割が期待されています。

こうした変化の中、私は歴代初めて組織内会計士として公認会計士稲門会の会長に就任しました。これまでの会長は、監査法人または会計事務所に所属する公認会計士の方々でしたが、私の就任は、公認会計士の職域が多様化していることを示す象徴的な出来事だと考えています。

稲門会としても、この変化を反映し、多様なフィールドで活躍する会員を支援する組織へと進化する必要があると考えており、公認会計士がどの職域においても活躍できるような環境を整え、会員の皆様が価値を生み出せるような組織づくりを推進することが責務であると考えています。

「勢力拡大」に向けた具体的施策

1. 会員増強と財政基盤の強化

公認会計士稲門会の活動をより活性化させるためには、新規会員の獲得が不可欠です。会員数の増加は、組織の影響力を高めるだけでなく、より多くの知識や情報を共有できる環境を整えることにもつながります。さらに、会員増強の目的は単なる規模の拡大だけではなく、持続可能な組織運営を確保するための財政基盤の強化にもあります。

背景

現在、稲門会ではデジタル化を推進することで、業務の効率化を図っています。例えば、イベント管理ツール「Peatix」の導入や会員管理システムのクラウド化は、事務局の運営を大幅に効率化しました。しかし、こうしたシステムの維持や拡充には一定の運営コストがかかります。このコストを賄い、安定した組織運営を続けるためには、会費収入の強化が欠かせません。つまり、新規会員の獲得は、組織の財政的な安定を確保し、より充実したサービスやイベントを提供するための重要な柱となるのです。

具体的な施策

1. **若手会員の積極的な勧誘**
   - 大学や資格取得後の公認会計士を対象に、稲門会のメリットを伝える説明会を開催。
   - 公認会計士として活躍している、いわゆる大御所の方々をネットワーキングイベントにお招きし、若手会員とのネットワーキングする機会を設けることで、若手会員が稲門会への参加が有意義であると感じてもらえるイベント等を開催。
2. **稲門会の認知度向上と広報活動の強化**
   - SNSやウェブサイトを活用し、会員同士の交流の様子や活動報告を積極的に発信。
   - 各監査法人や公認会計士が多く所属する企業に担当幹事を置き、各組織において稲門会の広報を促進。
3. **会費納入の簡易化**
   - 今までは「ゆうちょ振込用紙」による振込のみが会費納入の手段であったが、クレジットカードで納入できるよう会費納入の仕組みを簡易化。
   - 会員名簿と会費振込のデータベースが統合しておらず、会費納入に関する情報が効率的に各会員に伝達できていなかったが、これを会員に効率的に伝達できるよう改善を図る。

2. サステナブルな事務局運営のためのデジタル化

デジタル化を進めることで、組織運営の効率化と事務負担の軽減を図ることができます。これにより、会員の利便性が向上するとともに、持続可能な運営を実現できます。

背景

従来の事務作業は手作業による管理が多く、あらゆる事務局業務に時間がかかることが課題でした。例えば、会員リストの管理、イベントの出欠確認、会費の徴収などは紙やメールを使って行われることが多く、業務の効率化が求められていました。こうした課題を解決するため、稲門会ではデジタルツールの導入を積極的に進めています。

具体的な施策

1.「Peatix」の活用
- ◦ イベントの出欠管理や会費の運営管理をウェブツールで一元化。
- ◦ 会員の利便性向上と事務負担の軽減を実現。

2. クラウド型会員管理システムの導入
- ◦ 会員情報を一元管理し、リアルタイムでの情報更新を可能にする。
- ◦ 事務局と会員間の連携を円滑化し、迅速な対応を実現。

3. 会計業務の外注化検討
- ◦ 現在は会計担当役員が記帳を行っているが、将来的に外部委託を視野に入れ、役員の負担を軽減。
- ◦ 外部専門家との協力により、透明性の高い会計運営を目指す。

３. ネットワーキング強化による当会の利用価値向上

公認会計士業界では人的ネットワークの構築が不可欠です。稲門会では、会員同士の交流を促進し、業界全体の発展に貢献できる場を提供していきます。特に、業界で活躍している公認会計士の方々を積極的に招き、若手世代との交流を深めることで、稲門会の魅力を実感してもらうことを目指します。

背景

公認会計士業界は専門性が求められる一方で、実務経験を積む機会の確保が重要です。ネットワーキングを強化することで、若手会員が経験豊富な公認会計士から直接学び、キャリア形成のヒントを得る場としての価値を高めることが可能となります。

具体的な施策

1. 業界トップの公認会計士との対話セッション
- ◦ 監査法人、企業のCFO、財務・経営コンサルタントなど、多様なキャリアを持つ公認会計士を招き、パネルディスカッションを開催。
- ◦ 若手公認会計士が質問できる場を設け、具体的なキャリア形成のアドバイスを得る機会を提供。

2. 若手世代向けのメンタープログラム
- ◦ 先輩公認会計士とのマッチングを行い、長期的なキャリア相談を実施。
- ◦ 実務で直面する課題について、先輩公認会計士が具体的な助言を提供する場を構築。

3. 企業や団体との共同イベントの開催
- ◦ 監査法人や企業、活躍されている著名な方々と協力させていただき、公認会計士としてのキャリアの可能性を探るネットワーキングイベントを展開。
- ◦ 他の稲門会との合同セミナーを実施し、多様な視点から業務を学ぶ場を提供。

結び

公認会計士稲門会は、時代の変化に対応しながら、進化し続け魅力ある組織であり続けたいと考えています。私が会長である期間においては、「勢力拡大」という理念のもと、会員の皆様がさらに活躍できる場を築き、互いに成長を促すネットワークを強化していくことを推進していきたいと考えています。

公認会計士業界は今後も進化を続けるでしょう。その変化を先取りし、会員の皆様にとって真に価値のある組織を創り上げるため、皆様のご協力と積極的なご参加をお願いいたします。一人ひとりの力が集結すれば、公認会計士稲門会はさらなる飛躍を遂げることができるはずです。

共に未来を切り拓き、より強固な組織へと成長していきましょう。

「公認会計士稲門会奨学事業」
－ 2024年度奨学事業報告 －

（奨学担当副会長）
山田　眞之助
（1980年 商学部卒業）

2024年度の事業実績

1. 奨学金の給付状況

大学より次の３名を推薦いただき、各人に50万円を給付しました（学年は給付時）。

- MA　JIANHENG　マ　ケンコウ
  文学部　３年　中国
- KAHAER DANNIYAER　カハアル ダニエル
  大学院環境・エネルギー研究科 修士 １年　中国
- 胡　淇蔚　コ　キイ
  大学院環境・エネルギー研究科 修士 １年　中国

日ごろ奨学事業を支えていただいている皆様には敬意を表するとともに、心から感謝申し上げます。

2024年12月12日（木）大隈ガーデンハウスにて総長招待の指定寄付奨学生の集いが開催されました。

奨学金寄付は「広く軽く」を基本方針とし、より多くの皆さまに無理のない範囲でのご支援をお願いしています。引き続き本事業のために皆さまのご協力を賜れれば幸いです。なお、寄付の申し込み方法は「公認会計士稲門会奨学金へ寄付のご案内」をご参照ください。

「2024年度総長招待　指定寄付金奨学生の集い」
公認会計士稲門会奨学生集合写真

お写真の左から以下のとおりです（敬称略）
矢内　義顯　（早稲田大学学生部長）
マ　ケンコウ　（奨学生　中国）
コ　キイ　（奨学生　中国）
田中　愛治　（早稲田大学総長）
山田眞之助　（奨学担当副会長）
カハアル　ダニエル　（奨学生　中国）

2. 奨学事業収支年度別一覧

（単位：万円）

年　度	1991～2020年	2021年	2022年	2023年	2024年	累　計
寄付金収入	6,081.5	180	172.6	119	149.5	6,702.6
（寄付者数）	（1,873名）	（42名）	（38名）	（28名）	（33名）	（2,014名）
奨学金給付額	5,800	150	150	150	150	6,400
（奨学生数）	（116名）	（3名）	（3名）	（3名）	（3名）	（128名）
資金繰越残高	281.5	311.5	334.1	303.1	302.6	

3. 2024年度寄付者芳名（順不同・敬称略）　2025年3月31日現在

堀内　三郎	西山　隆司	抜水　信博	渡辺　俊之	尾碕　隆昌	近野　博
古谷伸太郎	袖山　裕行	渋谷　道夫	村上　健夫	杉田　純	佐藤　正典
安村　長生	藤田　世潤	種田ゆみこ	長峯　徳積	三宮　圭祐	富永　和也
鈴木　豊	山田眞之助	内山　英世	豊島　絵	髙井　宏司	金田　賢二
水谷　太郎	山口　俊明	上野　紘志	沖倉　強	塚田　知信	久保　直生
小暮　和敏					

（以上33名　※匿名２名）

「最近の活動」

辻山　栄子
（名誉教授・監事）

▪ 念願のテキストを出版

2018年3月に早稲田大学商学学術院を定年退職してから早くも7年の歳月が流れました。何を今さらと驚かれるかもしれませんが、遅ればせながら本年２月に念願のテキスト『財務会計』（中央経済社刊）の出版に漕ぎつけました。

早稲田大学に奉職していた15年間を含めて41年間、財務会計の研究者として教壇に立ち続けていた間、常に頭から離れなかったテキストの出版にこの歳になってやっと漕ぎつけたというのは、遅きに失した感を否めません。生来の怠慢を反省するばかりです。

現役を離れたにも拘わらず、今更ながらテキストの出版に挑戦したのにはいくつかの理由があります。

私が公認会計士2次試験に合格したのは学生時代の1970年のことですから、55年も前のことになります。今となっては信じがたいことかもしれませんが、当時の大学の財務会計の講義は、もっぱら「企業会計原則」の解説に1年が費やされていました。その時代と比べると、現在の財務会計の講義内容のボリュームはおそらく10倍はくだらないと思います。しかし、当時大学で会計学を修めて企業の財務担当者に就いた人たちや、公認会計士試験に合格して公認会計士になった人たちは、実務の現場で今と全く引けを取らない専門性を発揮していたはずです。というのは、当時の会計教育は第2次大戦後に日本に導入された「企業会計原則」の基本に横たわる「損益法」の発想を徹底的に浸透させることに主眼がおかれていたからです。個々の基準の中身ではなく、その思考法を身に着けた専門家として、各人が実務の現場で、また資本市場の番人として、自力で的確な判断を下せる力を養うことが当時の講義の眼目でした。そして受講生は誰もが基準の内容に十分に納得しながら学習を進めていたと思います。

一方、自分自身の晩年の講義を振り返ると、大量の複雑な基準の中身を解説することに時間の大半を費やしてしまい、その基準の背景にある考え方や、時として会計基準の国際化の波の中で妥協の産物として生み出された基準の成り立ちの解説に十分な時間を割く余裕はなかったように思います。講義時間の中では十分な解説ができないまでも、会計専門家としての判断力に資する力を付けられるようなテキストを書いて読んでもらいたいと思いつつ延び延びになって、今年になってようやくその願いが叶ったというのは、本当に忸怩たる思いです。

もう一つ今回の挑戦の動機になっていたのは、日本の会計基準が2000年を境に連結主体に大きく変貌を遂げているにも拘わらず、多くのテキストが個別主体の体系のままであると思われたからです。そこで、新しく連結主体を前提にして体系を組み立てたテキストが必要だと感じるようになりました。特に私は、2000年を境にした世界の会計基準の激動期に日本基準の開発を担っていた企業会計審議会とASBJの委員として、また国際会計基準審議会（IASB）に設置されていた基準諮問会議の委員として、会計基準をめぐる世界的な議論の応酬の現場に図らずも身を置く機会に恵まれました。また日本版概念フレームワークの起草メンバーにも加わりました。そこでの貴重な知見を記録に残しておくのは、会計研究者として一種の義務でもあるという想いが強くなったのも出版に挑戦した動機です。

結果的にこれらの目的が少しでも達成されているのかどうか、甚だ自信がありませんが、こればかりは読者の皆様の評価に委ねるしかありません。

▪ 早稲田での出会いに恵まれて

今回のテキストは、結果的に全30章、520ページという大部のものになってしまいましたが、このうち私が直接執筆したのは実は6章分です。残りの章は私が早稲田大学の商学研究科で担当した

ゼミから巣立った10名あまりの研究者のうちの3名に執筆してもらいました。

ただし各章を仕上げるに当たっては、編著者としてZoomによるリモート会議を数十回も開いて検討を重ね、読者が基準を理解してより納得感が深まるように可能な限り多くの「設例」を用いたり、必要に応じて「コラム」を用いて基準の背景にも言及してみました。

検討会が8時間にも及ぶことも多々ありましたが、毎回忌憚のない意見交換ができたのは、今となっては楽しい想い出です。この歳になってこのように気心の知れた若手の研究者との会合を続けられたというのは、早稲田大学が結んでくれたご縁であると、今更ながら感謝しています。

出版後の本の売れ行きを心配していましたが、幸い順調な売れ行きだと聞き、ホッとしているところです。

▪ 遠く、かすかな歌声に耳を澄まして

ところで私が公認会計士2次試験の受験勉強をしていた55年前は、今のような専門学校ではなく大学のサークルで先輩の合格者が後輩を指導するという時代でした。建て直される前の古い11号館の1階に集まって、週1回の模擬試験を受け、前の週に受けた模擬試験の採点結果と解説を聞くのが常でした。

我々が試験勉強に没頭し、戦後民主主義が着実に根付き、世の中は間違いなく良い時代に向かっている、皆がそう感じていたその時代に、あるサークルでは次のような不思議な歌が歌われていました。

「ある朝、目覚めて、目覚めて我は見る攻め入る敵を･･･、我をも連れ行け、さらばさらば恋人よ、我をも連れ行けパルチサンよ、やがて死す身を･･･、戦に果てなば、さらばさらば恋人よ、戦に果てなば、山に埋めてよ、埋めてよかの山に花咲く丘に…。」

まだカラオケもない時代、学生たちはコンパなどの最後にスクラムを組んで好き勝手に歌を謳っていたものですが、55年も前に聞こえてきたこの歌などに真剣に耳を傾ける学生はそれほど多くなかったと思います。

ところがそれから何十年も経って、あの歌が遠いパレスチナの地との連帯の歌であったこと、そしてあの時から今日に至るまで、パレスチナでの紛争は絶えることなくずっと続いてきたのだということを思い知らされました。1年半前のハマスの奇襲攻撃を契機に状況はさらに悪化しています。既に55年も前から日本の学生の間でも歌い継がれていたあの歌が現実のこととしてずっと続いてきたのだと思うと胸が張り裂けそうです。

▪ 混迷の時代に生きる者として

近年、会計の世界ではサステナビリティの保証業務の話題が盛んになっています。この分野における会計士業務の拡大に向けた期待も高まっています。多様性の重要性が叫ばれ、いまや女性会計士はどこでも引っ張りだこです。

一方では、今年に入って突如トランプ政権が多様性やサステナビリティを重視する企業を政府の契約から外そうという驚天動地の報道が新聞を賑わせ始めました。多様性を支持する大学や企業に対する圧力も増しています。まるで歴史の針が百年も前に巻き戻されたような錯覚さえ覚えます。

世界の価値観の揺らぎは、会計のあり方や会計士のあり方とも無縁ではありません。資産評価の在り方やのれんの償却の問題がその一例です。会計基準に理屈などいらないという言説も堂々とまかり通り始めました。サステナビリティの問題も、見せかけだけの取り組みであればやがて砕け散ってしまうでしょう。

マイノリティとして働く女性に対して固く門戸が閉ざされていた55年前の時代に、会計という職業を選んで働き続けることを選択した身として、一会計研究者として、自分にいま何ができるのか、自問する日々です。混迷と矛盾に満ちたこのような時代だからこそ、微かに聞こえている歌声に今こそ耳を澄ましていたいと思います。

「早稲田大学公認会計士講座の終了と今後の商学部・大学院における会計教育」

長谷川　惠一
（早稲田大学教授）

早稲田大学公認会計士講座について

早稲田大学公認会計士講座（以下、「本講座」といいます。）は、2025年3月31日をもって、長年の活動に終止符を打つことになりました。公認会計士稲門会の先生方には、これまでに本講座に対して多大なご支援・ご指導を賜りました。最後の本講座担当教員として、この場をお借りしまして、衷心より厚く御礼を申し上げます。

本講座の発端については、20年くらい前に故・對馬和也先生から、昭和40年代に公認会計士試験の合格を目指していた商学部生（想像ですが、当時の日下部與市先生のゼミ生の先輩方が多かったのでしょうか?）が自主的に集まり、公認会計士試験の合格に向けた勉強や対策をサークルのような形態で始めたのが端緒だ、と伺ったことがあります。当時はまだ、公認会計士受験を目指した専門学校のコースがない時代だったということでした。

その後、大学からの支援として本講座の運営に補助金を受けられるようになり、予算の支出管理は商学部事務所で担当するとともに、学生の講座申込手続や受講生への講座情報の案内などの業務は、商学部の学生を中心にアルバイトを採用して事務局の運営を行ってきました。

早稲田大学公認会計士講座終了の理由

一方で、「公認会計士講座」という名称ではあるものの、公認会計士試験の受験者が専門学校の受験コースで勉強することが多くなったこともあり、本講座の内容は公認会計士試験の基礎となる日本商工会議所簿記検定試験の1級・2級・3級の合格を目指したものとなりました。各コースの受講料は、本講座と同等の内容のコースを運営している専門学校の受講料と比較して割安で設定していました。この当時の講師は公認会計士試験に合格した卒業生・在学生が担当してくださいました。

ところが、コロナ禍によって大学の授業をオンラインで実施したことに伴い、本講座も対面での形態からオンラインで実施することにしました。コロナ禍に関連してか、簿記・会計の資格試験や検定試験に合格するためのコースを設置している専門学校でも、近年、日本商工会議所簿記検定試験の合格を目指した無料のコースをオンラインで提供することになりました。

その結果、早稲田大学の学生にとっては、受講料を支払ってまで本講座を受講するというモチベーションが下がることになり、コロナ禍が収束して対面授業に戻っても、受講生の数は急に回復することはありませんでした。本講座への逆風となるこのような状況は、今後風向きが変わるとは予測できず、残念ながら2024年度末をもって本講座の手仕舞いを決定した次第です。

今後の商学部における会計教育

本講座が活動を終了したとはいえ、早稲田大学出身の公認会計士試験合格者数が、長年にわたって慶應義塾大学出身者の後塵を拝し2位に甘んじていることに対して、早稲田大学の会計学担当教員の一員としても、何らかの対策を打ちたいと思っております。以下は、会計学担当教員の間でコンセンサスを得たわけではなく、個人的な試論の域を出ない「私案」にしか過ぎませんが、早稲田大学における公認会計士受験者数を増加するための今後の方向性についての「思い」を申し述べます。

まず、商学部における会計教育についてです。商学部では、1年次の必修科目として「基礎会計学」を全員が履修します（以前は、会計学の導入科目として「会計学総論」や「簿記原理」を設置していました）。早稲田大学で教壇に立ちはじめた三十年ほど前に、「簿記原理」を担当していたころ、公認会計士稲門会のイベントにお招きいただくと決まって「1年生の必修科目を担当しているので、履修者が『会計嫌い』にならないように心がける」とご挨拶していました。

昨年度、十数年ぶりに「基礎会計学」を担当しました。担当したクラスは、商学部以外の学生も科目

登録できることから、多くの政治経済学部・法学部の学生も履修していました。履修生の所属学部を意識し、国家予算など財政的な論点や法制度に関連させて会計学の意義や必要性に触れつつ、できるだけ会計の実務的な観点を踏まえた内容を加えて講義をしました。

実は、私が会計学に興味を持ったのは、商学部1年次に必修科目「会計学総論」を染谷恭次郎先生に教えていただいたことでした。染谷先生は講義中、理論や概念はもちろん説明されましたが、ビジネスの世界で会計が果たす役割について論じられ、新入生にもイメージできる講義でした。そのおかげで、会計に興味をもち、2年次以降も会計学の授業を選択し、会計学のゼミに入学し、大学院商学研究科に進学して、幸いにも母校で会計学の授業を担当することになりました。

公認会計士試験の受験者を増やすための第一歩は、必修科目で会計の意義や役割を理解してもらい、多くの履修者が会計に興味を持ってもらうことであると考えています。それにより、商学部の会計トラックに設置した選択科目を履修してもらえることにつながり、ひいては3年生からのゼミナールを選択するときに、会計トラックのゼミを志望してもらえる呼び水になると思います。

商学部卒業後の進路

商学部が属する商学学術院では、大学院のプログラムを3箇所で提供しています。設立順に、大学院商学研究科（修士課程と博士後期課程）、大学院会計研究科（専門職学位課程）、大学院経営管理研究科（専門職学位課程）が、それぞれ特色あるカリキュラムで教育を担っています。

商学部の学生で、卒業後すぐに商学研究科または会計研究科に進学する者も増えてきました。公認会計士試験の合格を目指す学部ゼミの学生が、卒業後に、商学研究科に進学するか、会計研究科に進学するか、という「贅沢な悩み」を相談しに来ることもあります。

公認会計士稲門会との連携強化

商学部と3研究科のカリキュラムを運営するにあたり、公認会計士稲門会の先生方には、ご経歴および専門性を活かして、授業の一端をご担当していただいております。長年のご尽力にこの場をお借りして御礼を申し上げます。

また、関根愛子先生には、商学部の教授でいらっしゃるとともに、公認会計士稲門会の副会長をお務めということで、商学部・商学研究科・会計研究科の担当教員との連携強化に向けた意見交換の場を設定することをご提案いただいています。

名誉教授の大塚宗春先生には、「稲門会の先生方には、いろいろな面でご支援をいただいているのだから、稲門会のイベントにご案内をいただいたときにはできるだけ顔を出して、交流を深めなくてはいけない」とご指導をいただいておりました。それを率先垂範していたのが、恩師小川洌先生でしたので、小川ゼミの伝統として、これからもお誘いがあれば、馳せ参じたい所存であります。

公認会計士稲門会の先生方には、今後もさまざまなことで早稲田大学、商学部、商学研究科、会計研究科にご支援をいただくことになると思います。引き続きよろしくお願いいたします。

公認会計士稲門会ホームページのご案内

公認会計士稲門会のホームページ(以下「HP」）の一番の特徴は、「ログイン」ページを設け、会員限定記事の掲載･閲覧ができるようにしてあるところです。現在、早稲田大学名誉教授･大塚宗春先生による「連載企画 早稲田大学の会計学の歩み」を連載頂いております。2023年1月28日に「第1回 大隈重信と会計」を掲載して以来、今までに第12回までを掲載をしており、全15回を予定しております。

是非、一度右記のＵＲＬまたは二次元バーコードからアクセスをし、会員登録の上、会員限定記事の閲覧をして頂けますと幸いです。　http://www.cpa-tomonkai.jp/

なお、HPの運営は小松真実氏（公認会計士稲門会会友）の多大なるご支援のもと行われていますことをここに申し添えさせて頂きます。

（広報担当副会長 抜水信博）

「最近の研究活動」

若林　利明
（商学部 管理会計論担当 准教授）
（2009年商学部卒業）

はじめまして。2024年9月より早稲田大学商学部に管理会計論担当の准教授として着任いたしました若林利明と申します。2025年4月からは「組織のデザインと管理会計研究」という演習名でゼミを開講しております。

私は2009年に早稲田大学商学部を卒業後、大学院商学研究科に進学し、博士後期課程を満期退学後、早稲田大学商学部助教として「専門英語講読」などを担当しておりました。その後、博士（商学）の学位を取得し、2018年に上智大学経済学部に着任。このたび、6年半ぶりに母校へ戻ることとなり、嬉しさとともに、学恩に報いるべく国際的に通用する研究を行い、皆様のような優秀な卒業生を輩出せねばならないという責任の重さも感じております。本稿では、脇会長よりご依頼を受け、私の研究活動についてご紹介させていただきます。

私の研究の原点

私が研究者・大学教員を志すにあたり影響を受けた先生方を紹介します。きっかけは、大塚宗春先生のゼミで学んだことでした。学部から修士課程まで所属し、企業会計のみならず、公会計や経営財務といった広範な分野を学びました。特に、大塚先生の人柄や生き方に強く惹かれたことが、大学教員を志す大きな契機となりました。

大学院進学後は「契約理論」という経済学の理論に基づく会計研究の面白さに魅了されます。契約理論とは、情報の非対称性などが存在する状況において最適な契約を設計する問題を分析する手法を開発する理論の総称です。情報の非対称性とは、経営者と事業部長など契約を締結する当事者間でそれぞれ自分にしかわからない情報（私的情報）を持っていることをいいます。契約理論は、組織の階層性と経営活動に参加する個人間の利害対立の構造を描きつつ、そこでの情報の経済価値を分析するために、適した経済理論とされます。現代ではほとんどの組織は階層化し、計画と実行を行なう人間は異なりますので、契約理論は、管理会計研究における主要な分析ツールの1つとして用いられています。

そこで私は大塚先生の勧めで、契約理論による会計研究を専門とする社会科学部の佐藤紘光先生のゼミにも参加することとなります。佐藤先生のゼミは毎週土曜13時から18時まで（しばしば居酒屋で延長戦）、ひたすら海外のトップジャーナルを読み込んでいくハードなものでした。最初はほとんどわかりませんでしたが、必死に食らいついていったことが今に続く私の研究者としての土台となっています。

大塚先生や佐藤先生は定年退職となるため、博士後期課程では会計研究科の川村義則先生のゼミに所属します。同時に博士論文の指導委員に商学部の奥村雅史先生と会計研究科の鈴木孝則先生に入っていただきました。川村先生、奥村先生、そして鈴木先生は今も変わらずご活躍中ですので、師匠としてだけではなく教育・研究・大学運営などで仕事をご一緒させていただくことも多いです。長い付き合いになりますが、御縁に恵まれた私は幸運であったと思います。博士論文の審査では、指導委員に加えて経済学者の佐々木宏夫先生に審査員になっていただきました。私の研究はミクロ経済学との関連が非常に深いです。研究は会計学という狭い領域のみならず隣接分野と相対化しながら行なう必要があります。佐々木先生との出会いにより、私は研究者としての視野を拡げ、隣接分野の先生とも研究上の関わりを持てています。

会員の皆様がご存じの先生方もいたかもしれません。早稲田の同窓としての意外な繋がりを感じていただけると幸いです。

管理会計研究の最先端を目指して

管理会計の目的は、第1に経営者の意思決定を支援すること、第2に業績評価を通じて組織構成

員をコントロールし、組織の効率性を高めることにあるとされています。私の研究は特に第2の目的に焦点を当て、その理論的地平の拡張を試みています。

経営者は、従業員の行動を完全に観察することができません。そこで伝統的な管理会計論では、業績情報を用いて、望ましい行動を促す仕組みを設計してきました。たとえば、業績に連動して報酬を決定することで、従業員が成果を意識して行動するよう動機付けるという発想です。

私の近年の研究では、業績情報など会計的なコントロール以外の手段、具体的には「行動目標」や「行動指針」など行動的なコントロール手段を追加して、伝統理論の拡張を試みています。2024年には、これまでの研究成果をまとめた著書『アイデンティティ業績管理会計－組織コントロール理論の拡張と応用－』（中央経済社）を刊行しました。行動目標とは、組織構成員が具体的にとるべき行動を明示的に定めたものです。例えば、ジョンソンエンドジョンソン社の「我が信条（Our Credo）」やリッツカールトンホテル社のクレドが挙げられます。日本企業もTOYOTA社やセブンアンドアイホールディングス社などをはじめ多くの企業が「行動指針」を定めています。

しかし、従業員の行動を直接観察できないはずの経営者が、なぜ行動目標や指針を定めるのかという問いが浮かびます。行動がわからないのであれば、経営者は従業員の行動目標からの逸脱を指摘することもできません。このような実務慣行は組織コントロールにおいて無意味なのでしょうか。そこで私は、行動目標の効果が、従業員に内在する「アイデンティティ（帰属意識）」によって媒介されているのではないかという仮説を立てました。

アイデンティティとは、自分が所属している組織や職業に対する自己認識であり、そこから外れる行動に「心の痛み」を感じる心理的因子を意味します。たとえば、公認会計士や監査法人の一員としてふさわしくない行動をとろうとした際、「なんとなく気が咎める」感覚を経験された方もいらっしゃるのではないでしょうか。こうした視点は、これまで管理会計論では十分に取り上げられてきませんでした。

アイデンティティに着目した背景には、テレワークや人的資本経営の注目といった短期的な変化、ならびにM&Aや成果主義の導入といった長期的な経営トレンドが背景にあります。組織のあり方が変化する中で、そこで働く個人のアイデンティティが組織コントロールに果たす役割の解明は今後ますます重要になると考えています。

本書では、こうした理論的枠組みに基づく分析を通じて、業種特性、新卒や中途入社などの人材の採用経路、テレワークなどの働き方の違い、あるいはM&Aなどの全社戦略の特徴に応じた最適なコントロール・パッケージの設計についても提案しています。また、子会社や部門への権限移譲、業績評価指標の選択（株価か利益か）、報酬体系（固定給か業績連動給か）といった実務的課題にも新たな視座を提供しています。

「組織をいかにコントロールするか」という問いに対して、本研究が何らかの示唆を与えるものであれば幸いです。ご関心をお持ちいただけましたら、ぜひご連絡ください。実務的課題と連携しながら研究を進めていきたいと考えています。また、ご助言やご意見も今後の研究の糧とさせていただきます。今後ともどうぞよろしくお願いいたします。

「2024年公認会計士試験 合格祝賀会」

白井　亨
（後進育成担当副会長）
（教育学部国語国文学科卒業）

本年2025年3月27日(木)にリーガロイヤルホテル東京3Fロイヤルホールにて、2024年公認会計士試験の合格祝賀会を開催いたしました。出席者数は、前年度134名(合格者61名含む)に対し、本年度174名（合格者79名含む）と大幅増になりました。当日お忙しい中ご来場下さいました来賓の先生方、役員・会員の先生方には、この場を借りて御礼申し上げます。

さて、本祝賀会は他大学で一般的な大学主催ではなく、本公認会計士稲門会が主催しております。会の準備・運営は、私ども後進育成部会のメンバーに加え、本年度からは法人賛助金の呼び掛けや各法人における出席呼び掛けについて本会懇親部会の皆様のご協力を頂くとともに、各監査法人や商学部の公認会計士講座事務員の方々にもご参画頂き、出欠管理・来賓対応・司会・受付等の業務を分担頂きました。

また、収支を見ますと、本年度は物価高騰により会場費用が上昇する中で、出席者多数の合格者の会費無料も維持し、費用は大幅増となりました。しかし、多くの役員・会員の皆様からの会費収入に加え、大学を含む各法人・個人の皆様から賛助金収入を多く頂戴でき、その結果収入が費用を若干上回りました。準備・運営の稼働面、資金面、それぞれにおいてご協力頂きました全ての方々の多大なお力添えに改めて深謝申し上げます。

早稲田大学・大学院出身の合格者数は本年度も2位でしたが、来年度は更に合格者数が増え、合格祝賀会引いては本稲門会が盛り上がるよう取組みを進めて参りたいと考えております。本会役員・会員各位におかれましては、引続きのご支援・ご協力を賜りたく、どうぞ宜しくお願い申し上げます。

令和６年　公認会計士試験合格者　（公認会計士稲門会調べ）

（主な大学別合格者）

	大　学　名	人数
1	慶應義塾大学	171
2	早稲田大学	131
3	明治大学	81
4	中央大学	63
5	東京大学	60

	大　学　名	人数
6	京都大学	55
7	神戸大学	54
8	同志社大学	52
9	立命館大学	50
9	一橋大学	50

▣ 令和7年3月27日　合格祝賀会

合格者集合写真

脇 会長

白井 懇親育成副会長

関根 先生

辻山 先生

参加者集合写真

「ワセジョNW ～ 女性会計士の現状・部会活動」

種田（おいだ）　ゆみこ
（女性部会　副会長）
（1989年 商学部卒業）

★ワセジョ会計士NWこと女性部会

女性部会は、担当副会長の種田と常任幹事の矢野奈保子さん、藤森恵子さん、大野聡子さん、今西紘子さん、小西めぐみさん、林田絵美さんを中心に、「男女入部可能」をモットーに運営しています。教務部会副会長の関根愛子さんには顧問として大学連携を、広報部会副会長の抜水信博さんにはイベント写真撮影をサポート頂いています。

★幹事会

LINEとメール、時々リアルに個別対面

★イベント

1）2024/6　初の三田会稲門会合同女性懇親会
@水響亭銀座。慶応・早稲田男女20人参加

2）2024/11　第3回稲門会女性部会懇親会
@早稲田大学大隈記念タワー校友サロン
『会計という「背骨」を持ち、しなやかに生きる』
早稲田大学監事の園マリ氏と㈱キズキ取締役CFOの林田絵美氏との対談 男女23人参加

3）2025/3　公認会計士合格祝賀会
女性部員が、女性会計士部会をPRし、入会勧誘

4）2024/9　CPA会計学院早稲田校にて後進育成部会の白井亨副会長と共に、種田が「公認会計士キャリア講演会」にて男女受験生向けに講演

★方向性

1）ワセジョ会計士受験生の増加を目指す
2024年公認会計士試験最終合格者数1,603人のうち女性359人、女性比率22.4%。早稲田大学・大学院出身の補習所登録者数131人のうち女性38人、女性比率29.0%。公認会計士協会の女性会計士活躍促進協議会のKPIと同様に、試験合格者の女性比率3割を目標に、大学と連携して取り組みます

2）女性部会Facebookへの投稿を増やす

3）年1回以上イベントの開催

4）公認会計士三田会女性会計士との交流

★最後に

Facebookを開設ゆえ、ぜひ参加申請下さい。

■ 公認会計士 稲門会「ワセジョ部会」FB：
https://www.facebook.com/groups/447086503596042

ワセジョ会は2024年12月にLINE公式アカウント『ワセジョ会（会計士稲門会）』を開設しました。こちらでワセジョ会の活動予定やイベントのご案内をしております。なお、第4回ワセジョ会は2025年11月13日（木）19:00より都内レストランにて予定しております（詳細は別途LINE公式アカウント等でご案内します）。LINE公式アカウントの新規メンバーは常時募集しておりますので、こちらの二次元バーコードからぜひメンバー登録をお願いいたします。

「ますます広がるワセジョ会計士の輪」

小西　めぐみ
（女性部会　常任幹事）
（1998年 商学部卒業）

通称ワセジョ会と呼ばれる女性部会では毎年交流イベントを開催しています。

2024年におけるワセジョ会の主な活動内容をご紹介します。

①初の三田会稲門会合同女性懇親会

2024年6月11日に銀座の水響亭にて初の三田会稲門会合同女性懇親会を開催しました。三田会からは三田会会長を含む9名が、稲門会からは稲門会会長を含む11名の合計20名が参加し、華麗なる早慶戦を繰り広げました。女性会計士の益々の活躍が期待される昨今、公認会計士試験の合格者数ランキングで毎年第1位と第2位の常連である慶應と早稲田が手を取り合い、お互いの活躍に良い刺激を受けながら切磋琢磨する姿はまさに早慶戦そのものであり、早慶戦による熱き闘いは卒業後も続いていくことを実感させてくれる素晴らしい会となりました。

②第3回稲門会女性部会懇親会（ワセジョ会）

2024年11月16日に早稲田大学大隈記念タワー校友サロンにて第3回稲門会女性部会懇親会を開催しました。ワセジョ会は早くも第3回目を迎え、回を重ねる毎に新たな仲間が加わり、益々パワーアップしていきます。早稲田を卒業し、各々が社会に羽ばたきキャリアを充実させているその道中において、ワセジョ会への参加を通じて再び同門の仲間と出会い交流ができるワセジョ会は、卒業生のみなさまにとってまさにホームのような存在です。ワセジョ会はいつでもみなさまの帰りをお待ちしておりますので、どうぞお気軽にご参加ください。

▣ 令和6年6月11日 三田会稲門会合同女性懇親会

▣ 令和6年11月16日 第3回女性部会

「CPA研究部会の活動について」

小林　尚明
（CPA研究部会　副会長）
（1992年商学部卒業）

「CPA研究部会」を担当しております副会長の小林尚明です。

「CPA研究部会」という名称からは、どのような活動をしているのかがわからないとの声をいただいており、本日は活動内容のご紹介をさせていただきたいと思います。

皆様ご存じの通り、稲門出身の公認会計士試験合格者数は長い間2位という位置で定着しています。この要因の一つとして、附属校に対してのアプローチが不足しているのではないかというご意見をいただいておりました。これを受けて、キャリアセミナーという形をとって、附属校の生徒たちに公認会計士という職業の魅力を知ってもらうための活動を行うのが「CPA研究部会」です。

具体的には５つの附属校・系属校を対象に、年に１～２回のペースで各校を訪問し、セミナー等の活動を実施しています。セミナーでは、公認会計士の具体的な業務内容や資格取得までの道のりなどについて詳しく説明し、公認会計士としてのやりがいや社会的意義についても触れて、生徒たちの受験に向けてのモチベーションを高める工夫をしています。私の出身校である本庄高等学院でもすでに２回ほどキャリアセミナーを実施しました。今年も２月にセミナーを開催しましたが、土曜日の放課後という時間にも関わらず、５０名超の方にご参加いただきました。これは本庄高等学院で過去開催したキャリアセミナーの中で２番目の人数だそうです。ちなみに１位は本庄高等学院出身でアナウンサーの市來玲奈さんの回、元乃木坂の方に勝てるわけはないので、実質１位と思っています。

今後も継続的に各校とコミュニケーションをとり、受験者の母集団をしっかりと増やして、稲門出身の合格者増に確実につなげていきたいと思います。

「早稲田大学起業家支援に向けて　起業支援アクセラ部会活動報告」

江黒　崇史
（起業支援アクセラ部会副会長）
（1999年商学部卒業）

新緑の候、公認会計士の皆様におかれましては、ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。日頃は公認会計士稲門会、起業支援アクセラ部会へのご支援を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、公認会計士稲門会アクセラ部会でございますが、2024年の秋から冬にかけては、ベンチャー稲門会におけるIPO分科会での活動を継続するともに、2025年１月には早稲田大学大学院ビジネススクール教授である長谷川先生の早稲田大学スタートアップファクトリーの最終審査に参加させていただきました。早稲田大学スタートアップファクトリーについてはおかげ様で企業支援アクセラ部会が発足してから４年連続で公認会計士稲門会へ審査員へのお声がけをいただいております。

今年度においても引き続きベンチャー稲門会や早稲田大学スタートアップファクトリーとの連携をより強固にすると共に、ファイナンス稲門会との連携の準備も進めてまいります。

近年は東京証券取引所におけるグロース市場の見直しやスタートアップ企業のEXITとしてIPOではなくM&Aによる案件も増加しており、起業家を取り巻く環境が大きく動いていると感じております。このような激動の時代の中、起業支援アクセラ部会として早稲田大学起業家の支援が多方面から実施できれば、と考えております。

とはいえ、まだまだ活動が十分できている状況ではありません。

公認会計士稲門会の皆様からの変わらぬご指導、ご鞭撻の程を何卒よろしくお願い申し上げます。

「早稲田大学ベンチャーズのご紹介」

大野　聡子
（1998年 商学部卒業）

2022年4月、早稲田大学の名前を冠した、いわゆる大学系ベンチャーキャピタル（VC）である早稲田大学ベンチャーズ株式会社が誕生しました。

当社及び当社が運営を受託するWUV1号ファンドは、科学的ブレークスルーに基づく、世界に輝くスタートアップを世の中に出していくことを目指しています。対象とする科学技術シーズは、早稲田大学のみならず国内外の大学、研究機関も対象とし、分野としては物理科学、情報科学、生命科学領域に加え、人文社会科学やスポーツ科学といった領域にも取り組んでいます。

これまでに10社の投資が完了していますが、うち4社は早稲田大学の教授の研究成果をシーズとするスタートアップを立ち上げるところからサポートし、投資を行っています。このほか、早稲田大学を卒業し現在は他大学の教授職に就かれている方の研究シーズを事業化したスタートアップに2社、直近では早稲田大学のスポーツ科学部出身の方が創業されたスタートアップに投資をするなど、早稲田大学を軸とするスタートアップエコシステムの活性化に寄与しているものと自負しています。

少し硬い感じのご紹介になってしまいましたが、個人的には、大学を卒業して30年弱が経ってご縁あって再び大学の近くに戻ってきて、早稲田大学にはたくさんの最先端の研究があり、本当にすばらしい先生方、研究者、学生がたくさんいること、ずっと変わらない早稲田らしさが残っている一方で時代に合わせて様々な改革が行われていることに、ある種の安堵感と喜びを感じています。早稲田にはまだまだ未開拓の可能性がたくさん眠っていると思っていますので、その可能性を引き出すお手伝いができるよう引き続き努力してまいります。

「合格への道のりと今後の抱負」

三宅　達也
（商学部4年）

この度は公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会を頂き、大変光栄に存じます。

私は元々、歴史科目の高校教師になるのが夢でした。したがって、受験では教育学部を第一志望としていたのですが、早稲田大学の一般受験で唯一合格を頂いたのが商学部でした。

商学部に進学したからには、ビジネスに関わりたいと考えました。そして、会計学の授業で紹介された公認会計士に強烈な魅力を感じることとなったのです。資格職であるためにリスクを冒して自らの好きなことが出来るという魅力が、好奇心の強い自分に非常にマッチしたものだなと感じました。

今振り返ると受験勉強期間は長く苦しいものでした。目標としていた令和6年度第1回の短答式試験に僅差で落ちたことがそれを象徴する出来事です。しかし、学習方針を見直し1日あたりの勉強時間を2時間増やすという改善を行いました。その結果として、第2回の短答式試験に合格。その勢いのまま論文式試験にも合格することができました。

この勉強を乗り越え就職活動の際に、私は大手監査法人に行かない選択を致しました。就職する監査法人の成長性に惹かれたためです。

私自身、若い年次から幅広い業務に主体的を持って取り組みたいと考えております。

したがって、当法人で自らの専門知識を醸成し、常に視座高く現状に満足しない専門家になることを誓います。

「合格への道のりと働き始めての所感」

山本　健弘
（2025年 会計研究課修了）

この度は、公認会計士稲門会会誌へのご寄稿という大変貴重な機会をいただき、大変光栄に思います。私からは、合格への道のりと働き始めての所感について書かせていただきます。

私は、2020年の半ばに、会計士を志し、簿記や会計学の勉強から手を付け始めました。当初は、好奇心が旺盛な性格もあり、全く知識のなかった会計を理解・修得していくことに充実感を覚えていました。しかし、ゼミに入り、時間的余裕がなくなったことに加え、企業法や監査論(主に短答)の勉強に前向きに取り組めなかったこともあり、次第に目指すこと自体に迷いが生じるようになりました。しかし、会計研に入学し、同じ目標を持ち、悩みを抱える友人達と出会い、自習室で共に勉強をしたり、感情を共有したりするなかで、気持ちを切らさずに勉強を継続し、最終的に合格することができました。友人のみならず、自分が試験に集中できる環境をつくっていただいた教授や家族には大変感謝しております。

さて、ここからは繋忙期を終えての所感を述べさせていただきたいと思います。

研修を終え、ようやく監査業務に携われることに喜びを感じながらも、チームに貢献しきれていないというもどかしさを覚えたのが、正直な感想です。具体的には、調書をつくるにあたって、作業(エクセルなど)にリソースを割かれてしまい、時間や体力が削がれていくことに難しさを感じました。また、監査や基準の理解、そもそもの会社理解といったところでも、力不足を感じ、日々先輩方への質問や勉強を通じ、補強している段階です。

自分の目指すキャリアを歩めるように、業務に忙殺されるなかでも、日々前向きに目標をもって、学び続けようと改めて強く思いました。

「合格への道のりと今後の抱負」

古澤　理央
（商学部4年）

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、大変光栄に存じます。僭越ながら、本稿では私が公認会計士を志した経緯、合格までの歩み、そして今後の抱負について述べさせていただきます。

私がこの資格を志す契機となったのは、高校3年生のときに、先輩が公認会計士論文式試験に総合2位という優れた成績で合格されたという話を伺ったことでした。その先輩から、公認会計士は企業の財務情報の信頼性を保証し、経済社会の健全な発展に貢献するという重要な使命を担っていると教わりました。こうした社会的意義や資格を通じて多様なキャリアパスが広がっている点に大きな魅力を感じ、大学進学と同時に学習を開始いたしました。以後、大学の学業と両立させながら予備校に通い、日々の学習に真摯に取り組んでまいりました。学習を継続するなかでは、思うようにやる気が出ない日もありましたが、同じ目標を持つ友人たちと互いに励まし合い、切磋琢磨しながら努力を重ねてまいりました。その結果、友人全員で合格することができました。各論点に丁寧に向き合うことを心がけ、復習を重ねることで理解が深まり、会計学や租税法が得意科目になりました。

今後は、特定の領域に限定せず、幅広い実務経験を通じて視野を広げたいと考えております。また、苦手な英語に挑戦し、いつかは海外駐在したいと考えております。そして常に誠実な姿勢を忘れず、クライアント先や仲間から信頼される会計士として成長していく所存です。

改めまして、このような貴重な機会を頂戴しましたことに、深く御礼申し上げます。今後ともご指導ご鞭撻のほど、何卒よろしくお願い申し上げます。

「合格までの道のりと今後の抱負」

三輪　直輝
（2023年 商学部卒業）

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という大変貴重な機会を頂き、大変光栄に存じます。誠に僭越ながら、私の公認会計士試験合格までの道のりと今後の抱負を述べさせていただきます。

私が公認会計士を目指したきっかけは、予備校主催の監査法人へのオフィスツアーに参加したことです。そこで、会計士が提供する知識とスキル、そしてその資格がもたらす社会的意義や可能性を知り、会計士を目指すことを決意しました。

しかし、試験合格への道のりは決して平坦ではなく、諦めようと考えたこともあります。そんな中ゼミナールの教授が仰っていた「会計はビジネスにおける国や人種を超えた共通のコミュニケーションツールである」という旨の言葉に触れ、深い感銘を受けました。

この言葉に触発され、会計が世界中のあらゆるビジネス分野で必要とされ、また活かせるものであると再認識し、モチベーションを維持し続けることができました。また、学校や監査法人で出会った仲間たちからは大きな励ましを受けました。彼らと切磋琢磨し、共に合格を目指した経験は、私にとってかけがえのないものとなりました。支えてくれた友人や仲間、先生や家族には感謝してもしきれません。

今後の抱負としては、周囲への感謝を胸に、ただ業務に従事するのではなく、一日一日を大切にし、その業務の意味や理由、そして自分に期待されている役割を深く考えながら、会計士としての知識や経験を積み重ね、専門性を高めていきたいと考えております。そして、自分の能力を最大限発揮し、社会の期待に応え、社会から感謝されるような会計士を目指して日々精進してまいります。

「2025年度ゴルフ部活動計画」

小川　明
（1984年 商学部卒業）

昨今のゴルフ業界の状況は日本最大のゴルフ場を保有するアコーディアグループとPGMグループが統合され、若者を取り込むために新たなゴルフスタイルが模索されていく流れが加速すると予想されます。

公認会計士稲門会ゴルフ部も参加者の減少に直面しており、戦績も早慶戦3連敗、常勝の十月会も上位は維持しているものの勝利から遠ざかっております。そこでゴルフ部の活性化とスキルアップを図るため、研修会をスタートいたしました。

さる3月30日、取手国際GCにおいて有志のみでテスト的に第1回研修会を開催いたしました。脇会長のご紹介により、飯島茜プロのラウンドレッスンもあり、有意義な一日となりました。

多くの皆様のイベントへのご参加をお待ちしております。

連絡先メール：akky.ogawa@icloud.com

2025年公認会計士稲門会　ゴルフ日程

開催日	コンペ名	会　場
2025/ 3/30(日)	公認会計士稲門会研修会	取手国際GC
2025/ 6/29(日)	公認会計士稲門会研修会	裾野CC
2025/ 9/23(火祝)	公認会計士稲門会ゴルフ	取手国際GC
2025/10/13(月祝)	公認会計士早慶ゴルフ	未定
2025/11/ 3(月祝)	十月会ゴルフ	茨城GC
2025/11/ 5(水)	校友会ゴルフ	久邇CC

「奨学・支援金」制度へのご寄付のお願い

現現在、稲門出身の公認会計士試験合格者増加を目的とした活動を行っており、早稲田大学在校生や、付属・系属高校に対して稲門CPA研究部会や後進育成部でセミナー等を開催しています。また、「奨学・支援金」基金（特別会計）の寄付額が順調に推移した段階では、年2回、在校生、高校生に対し、受験予備校への入学金、授業料の助成として各2名程度、一人につき5万円を支給する予定です。
皆様のご協力でこの活動を支えて頂きたく、一口1万円からのご寄付をお願いいたします。

振込先：三井住友銀行／新宿西口支店／（普通）4905568
口座名：公認会計士稲門会

― お問合せ先 ―
JBAグループ　脇　一郎（相原）
E-mail　cpatomonkai@cpatomonkai.site

「環境技術で未来をつなぐ」

Danniyaer Kahaer
（環境・エネルギー研究科 修士２年）

早稲田大学大学院　環境・エネルギー研究科　修士二年（2024年４月入学）

2024年度で公認会計士稲門会奨学金を受給したDanniyaer Kahaerと申します。

私は新疆（シンジャン）で育ち、小学校の授業で「淡水は限りある大切な資源」と教わりました。乾燥した土地で育った私は、自然環境の恩恵と、それを守ることの大切さを早くから意識するようになりました。この原体験が、私の環境分野への関心の出発点です。

日本への留学を決めたのは、環境技術の先進性に加え、現場レベルでの実践的な取り組みに魅力を感じたからです。中でも早稲田大学は、理論と現場応用の両方を学べる環境が整っており、研究への熱意に満ちた学生や先生方に惹かれ、進学を決意しました。

現在私は、AIとロボット技術を用いた廃棄物リサイクルプラント向け自動選別システムの開発に取り組んでいます。カメラと機械学習モデルによって廃棄物を識別し、ロボットアームが素早く分別する技術の実証実験を重ね、昨年は従来比20%の処理速度向上を達成しました。今春には学内の実証試験プラントでの検証も行い、現場実装に向けた課題整理も進めています。

また、私はすでに日本の製造業企業から内定をいただいており、卒業後は日本国内の廃棄物処理現場にAIロボットシステムを導入する業務に携わる予定です。実践の中で経験を積みながら、最終的には、故郷にも適した形でこれらの技術を応用し、資源循環や環境改善に貢献したいと考えています。

公認会計士稲門会の奨学金をいただき、経済的な不安なく研究に専念できる環境を与えていただいたことに、心から感謝しております。今後も現場の声を大切にしながら、社会に役立つ技術の橋渡し役を目指して歩み続けます。

「世界を視野に、研究の道を切り開く」

胡　淇蔚
（環境・エネルギー研究科 1年）

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会を賜り、誠に光栄に存じます。また、ご支援いただきました奨学金に心より感謝申し上げます。

私は高校時代に日本文化への関心を抱いたことをきっかけに、大学では日本語を専攻しました。大学では語学にとどまらず、日本の経済や文学についても幅広く学ぶ機会に恵まれました。さらに、大学３年次には東京の大学に1年間留学する機会をいただき、実際に日本で生活を送る中で、街並みや公共施設の清潔さ、ごみ分別の徹底に深い感銘を受け、日本の環境保全意識の高さを実感しました。これらの経験を通じ、大学卒業後は日本の大学院でさらに環境分野について深く研究を進めたいと強く志すに至りました。

早稲田大学は、環境研究分野において高い評価を受けており、幅広い専門家が集う中で、学際的な視点から環境問題に取り組める点に大きな魅力を感じ、進学を決意しました。また、国際交流が盛んな環境下で、多様なバックグラウンドを持つ学生と意見を交わしながら学ぶことで、自身の視野を広げ、グローバルな課題にも柔軟に対応できる力を養いたいと考えております。

現在は、「訪日外国人観光客の環境保全意識と環境配慮行動」に関する研究に取り組んでおります。訪日外国人観光客による日本の環境ルールに対する認識や行動実態を明らかにし、それに基づき、観光客が日本の環境ルールをより理解し、快適かつ楽しく旅行できるための観光施策の提言を目指しております。

将来は、大学院で培った知識と研究姿勢を活かし、日本企業にて勤務しながら、日本と中国の架け橋となることを目指しております。国際的な視野を持ち、環境学・経営学・社会学の知見を総合的に活用し、企業の持続可能な発展および日中両国の社会発展に貢献できる人材となるべく、今後もたゆまぬ努力を重ねてまいる所存です。

「神経科学の道を歩み続けるために」

馬　健恒
（文学部心理学４年）

この度は、公認会計士稲門会会報への寄稿という貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。2024年度公認会計士稲門会奨学金を受給いたしました、馬 健恒と申します。この奨学金のおかげで、早稲田大学文学研究科への進学資金を整えることができ、心より感謝申し上げます。

私が早稲田大学を志したのは、村上春樹氏の著作が好きだったという純粋な動機からでした。四年生となった今、入学を決断したことに一片の悔いもなく、数多くの機会と幸福に恵まれた四年間だったと実感しております。切磋琢磨できる学友、熱心にご指導くださった先生方や先輩方との出会いによって、大学への憧れは、次第にこの場で研究者を志すという強い目標へと変わりました。この「つながり」こそ、私にとって何よりも貴重な財産です。

私自身、感情が比較的安定しており、笑ったり泣いたりといった感情表現があまり表に出ない傾向があります。そのため、人とのコミュニケーションが得意とは言えません。しかし、それゆえに人や動物の感情、特に恋愛感情に関わる脳の働きに強い関心を持っています。

学部では「歌鳥の記憶操作と音楽選好の関係性」をテーマに研究を行い、大学院での学びを通じて、これらの分野における理論と実験的手法を磨き、研究者としての基盤をより強固なものにしていきたいと思います。今後はこれをさらに深めるとともに、人間の好みや愛情表現について脳科学的観点からも探究してまいります。

日々、自らの未熟さに悩むこともありますが、神経科学の論文を読む喜びや実験成功の達成感は揺るぎないものです。この探究心を胸に、たとえ困難に直面しても、神経科学の道を歩み続けたいと強く願っております。

令和７年度 定期総会のお知らせ

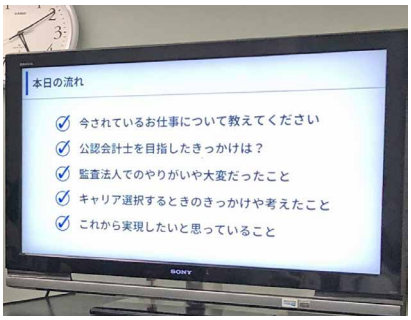
令和７年度定期総会は、下記の通り開催の予定です。会員はもとより早稲田大学で教鞭をとっておられる先生方、他大学よりの来賓の方々も多数出席され懇親のよい機会です。是非多数の会員に参加をお願い致します。

日　時	令和７年７月10日（木）　18時30分より
場　所	大隈会館　201・202号室
懇親会	19時30分～21時00分
参加費	公認会計士…10,000円・準会員…無料

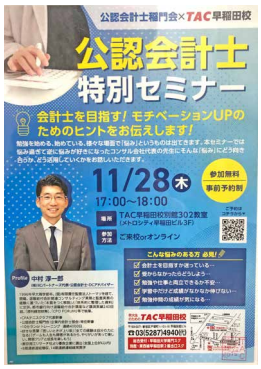
※ 詳しくは、同封しました別紙「令和７年 定時総会のお知らせ」をご確認下さい。

▣ 公認会計士を目指す受験生向けイベント

令和６年９月25日　種田女性部会副会長・白井後進育成部副会長（CPA 会計学院早稲田校）
「公認会計士キャリア講演会」



令和６年11月28日　中村企業内会計士部会常任幹事（TAC 早稲田校）
「公認会計士特別セミナー　会計士を目指す！モチベーションUPのためのヒントをお伝えします！」



登録住所及び登録メールアドレス変更の際のご連絡のお願い

会報を登録住所に送付し、メール・ニュースを登録メールアドレスに配信しています。転居や事務所移転等に伴う登録住所やメールアドレスの変更がある際には、公認会計士稲門会の事務局宛へのご連絡（**cpatomonkai@cpatomonkai.site**）もしくはホームページ（**https://www.cpa-tomonkai.jp**）の「お問合せ」からご連絡頂くようお願いいたします。ホームページのお問い合わせは、HOME ⇒ 問合せ、からアクセスできます。

▣ 令和6年7月11日　総会・懇親会

総会（左 山田総会副会長、中央 杉田前会長
右 小林懇親副会長）

脇新会長ご挨拶

懇親会・校歌斉唱

印刷物郵送停止を希望する会員の方へ

世間一般においてIT化が進む中、ウェブやメールで閲覧できることから郵送物の不発送のご要望を一部の会員の方から頂戴することもありました。このような流れに対応するため、会報等の印刷物についてメールやHPで情報確認するため、印刷物郵送は無くても問題ないとお考えの会員の方には、ご連絡方法をメールに統一し、印刷物の郵送を停止するという取組を開始いたしました。

ご自宅に郵送物の送付をご希望されず、ご連絡方法をメールに統一して良いとお考えの会員の方におかれましては、お手数ですが下記のURL又は二次元バーコードから、印刷物不用の旨のご連絡をお願い致します（一度ご登録いただきました場合には、特段のお申し出がない限り、郵送停止の取り扱いを継続させていただきます。それ以降の毎年のご連絡は不要でございます）。

https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSdyy-mELFBifVUepX1NIY0OrIPJM1bT2U-OOOlvVQmf_NdGVw/viewform

※ 年に一度の会報等の印刷物の郵送は、公認会計士稲門会の会員に公認会計士稲門会の活動を知っていただく大切なコミュニケーションの機会とも考えており、これからも会報等の印刷物の郵送は継続していく方針です。

年会費の支払についてのお願い

当年度稲門会年会費(公認会計士8千円、協会準会員4千円)につきましては① Peatix チケット購入形式でのお支払い、②銀行の ATM やインターネットによるお振込み（銀行振込)、③郵便振替用紙（郵送会報に同封）によるお支払のいずれかの方法で、お支払いをお願いいたします。

① Peatix チケット購入形式でのお支払い

二次元バーコード

URL　https://20250710-cpatomonkai.peatix.com

※ Peatix での年会費支払は総会日以後利用できなくなりますので、ご注意ください。

② 銀行振込

ゆうちょ銀行(9900)・店番(019)・店名(〇一九店／ゼロイチキュウ店)
預金種目(当座)・口座番号(0163893)
口座名：公認会計士稲門会
ゆうちょ銀行同士では、口座番号は　00170-2-163893 です。

公認会計士稲門会は、主に会員の年会費により運営されています。さらに充実した組織を目指しておりますので、会員の皆様方には、ご理解ご協力の程、何卒宜しくお願い申し上げます。

― お問合せ先 ―

JBA グループ　脇　一郎（相原）
E-mail　cpatomonkai@cpatomonkai.site

▣　編集後記　▣

脇会長の最初の年となる2024年度は、杉田前会長が掲げて来られた「参加型」の稲門会活動・イベントを引き継ぎつつも、今回の合格祝賀会では「勢力拡大」という脇会長の新方針に相応しく、後進育成部会及び懇親部会の各役員による努力の結果、今までで最大の参加人数の会となりました。イベント等にご参加できなかった会員の先生方にも、会報を通じてその雰囲気を感じとってもらえたらうれしく思います。

寄稿者のうち合格者については、各監査法人の公認会計士稲門会幹事の皆様にご選定のご協力を頂きました。寄稿者および推薦者の皆様、ありがとうございました。

（広報担当　抜水信博、小口 敬、江黒崇史、高島知治、高山清子）

（印刷会社　三共綜合印刷株式会社）